

令和5年度 第2回茅ヶ崎市総合教育会議 会議録

議題	こどもたちが継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむことができる環境整備について（視察及び意見交換）
日時	令和6年1月18日（木）午後3時30分～午後4時40分
場所	茅ヶ崎市立梅田中学校
出席者氏名	<p>総合教育会議委員</p> <p>佐藤市長 竹内教育長 赤坂教育長職務代理者 伊藤委員 大森委員 中馬委員</p> <p>（事務局）機構順</p> <p>坂田企画政策部長 岩井企画政策部総合政策課長 須藤企画政策部総合政策課課長補佐 菊池文化スポーツ部文化推進課長 佐藤文化スポーツ部スポーツ推進課長 白鳥教育総務部長 関教育総務部教育総務課長 高橋教育総務部教育総務課課長補佐 南雲教育総務部学務課教職員担当課長 木村教育総務部教育指導担当部長 力石教育総務部学校教育指導課長 新居教育総務部学校教育指導課主幹 山田教育総務部学校教育指導課課長補佐 村上教育推進部長 伊勢田教育推進部社会教育課長 浅井教育推進部社会教育課小和田公民館担当課長兼館長</p> <p>（学校関係者）</p> <p>柴田梅田中学校長</p>
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・資料1 こどもたちが継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむことができる環境整備について ・参考資料 アンケート結果概要
会議の公開 ・非公開	公開
傍聴者	0人

○教育総務課長

それでは、定刻となりましたので、これより第2回総合教育会議を開催いたします。私、教育総務課長の関でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の議題でございますが、「こどもたちが継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむことができる環境整備について」でございます。

本日の議題の説明の後、部活動の様子を、野球部、それから吹奏楽部合わせて30分程度視察をしていただきたいと思います。生徒たちの練習の様子、それから部活動の実際の活動状況をご覧いただきまして、その後の協議に臨んでいただければと思っております。

本日、会議の傍聴希望者はありません。それでは、ここからの議事進行は茅ヶ崎市総合教育会議運営要綱第3条に基づきまして、会議の議長でございます佐藤市長、よろしくお願いいたします。

○佐藤市長

皆さん、どうもお疲れさまです。それでは早速、次第に沿いまして、本日の会議の議題についてご説明をお願いいたします。

○教育総務課長

それでは、教育総務課長からご説明させていただきます。

本日の会議のテーマでございますが、「こどもたちが継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむことができる環境整備について」でございます。

令和4年12月に、スポーツ庁、文化庁より「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」が示されたところでございます。その背景に、少子化により部活動の存続が危ぶまれ、また、必ずしも専門性や意思に関わらず、教師の方が顧問を務める部活動の運営体制の継続というのが困難になっていることとございます。そういったことを踏まえまして、学校部活動を地域と連携することや、地域スポーツ団体等が実施主体となった活動へ移行を図ることとしてございます。

本市では昨年度から、教育委員会と市長部局が複数回にわたりまして、庁内検討会議を開催いたしました。その中で、本市の目指す姿等について検討してきたところでございます。本市といたしましては、単に現在の部活動を地域へ移行するのではなく、様々な形

で、多様な主体と連携し、こどもたちが継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しめるよう環境整備に取り組んでいくため、本日のテーマとさせていただきます。それでは、学校教育指導課から、本市の部活動の現状について説明をお願いいたします。

○学校教育指導課課長補佐

学校教育指導課で、部活動を担当しております山田でございます。

それでは、「こどもたちが継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむことができる環境整備」について、部活動地域移行に向けた本市の取組等を説明させていただきます。

まず初めに、部活動の意義を学習指導要領を基に説明させていただきます。「生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化、科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。その際、学校や地域の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や、社会教育団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行い、持続可能な運営体制が整えられるようにするものとする。」と明記されています。

また、国では「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が定められ、体力や技能の向上を図る目的以外にも、異年齢の交流の中での好ましい人間関係の構築や、学習意欲の向上、自己肯定感、責任感、連帯感の涵養につながることで、生徒の多様な学びの場として、教育的な意義が大きいと示されています。

スポーツ庁・文化庁が示す地域移行の課題としては、少子化等により、生徒の減少が続くことに加え、教員の働き方の見直しが求められる中、現在の部活動を維持することが困難な状況であることが挙げられています。そのような中、スポーツ庁・文化庁が示す地域移行の方向性として、令和5年度から令和7年度までを改革推進期間とし、休日部活動から段階的に進めていくことが示されました。また、平日の部活動については、できるところから実施するとしており、各市町村の実情に合わせ、段階的に進めること、地域における生徒のニーズに合った活動機会の充実にも着実に取り組むこと、地域のスポーツ・文化芸術団体と学校との連携・協働を推進することとされています。

こちらが国の示す地域移行の体制を表したものです。①や②-1、②-2のような体制を整備していくためには、一定の期間を要するため、移行期には外部の指導者を活用し、学校部活動と地域とで連携を図ることや、少子化等によりチームが編成できない場合には合

同部活動による生徒が活動できる環境を確保する必要があることが示されています。本市では約100名の部活動指導協力者にご協力いただいておりますが、今後、より効果的な活用に向けて検討して参ります。

続いて、県が示す課題と方向性についてご説明させていただきます。県も国と同様に、持続可能な部活動の整備するにあたり、少子化等により部活動の選択肢が狭まり、多様なニーズに応えられない状況や、教員の負担が大きいことを課題に示しています。そのような状況を鑑み、改革を進めるにあたっては、地域の実情に応じた取組が必要であることが示されています。

県が示す体制例として、「学校部活動の運営の改善」、「合同部活動」による「学校部活動の地域連携」によるものと、「地域スポーツ・文化芸術団体等運営型」、「市町村運営型」による「地域クラブ活動」による体制と、大きく2つに分けられますが、複数の方法を組み合わせることも工夫の1つとされています。

これまで本市が行ってきた部活動に関する取組は、こちらに示した通りです。国や県の方針に基づき、令和4年度から複数の関係課による庁内検討会議を開催し、「こどもたちが将来にわたり、スポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる」という市としての目指す姿を共有し、現在の部活動の状況把握や、課題の整理のため、教員・生徒へのアンケートを実施いたしました。

これまでの中学生のスポーツ・文化芸術活動の振興の中心を担ってきた部活動をそのまま地域に移行するといった考えは、持続可能ではないと考えています。これまで部活動にはない種目・団体も含め、競技志向やレクリエーション志向など、こどもの多様なニーズに応えられるよう整備していくことを目指します。

続いて、今年度、中学生を対象に実施したアンケートを紹介します。部活動する理由の回答が「同じ学校の仲間と一緒に活動できるから」という回答が一番多く68.4%ですが、「放課後の時間に他にやることがないから、特に明確な理由はない」と回答する生徒も15.9%いることがわかりました。

続いて、「部活動にはどのような気持ちで取り組んでいますか。」という質問に対して、「競技志向で大会やコンクールに出て、良い成績を残せるようがんばりたい」、「活動を楽しみながら大会やコンクールに出たい」という考えを持っている生徒が合わせて約60%を超えました。

続いて、「もしも部活動が学校になかったら、あなたは放課後や休日をどのように過

ごすと思いますか。」という質問に対して、「自宅でゆっくり過ごす」が一番多く、「地域でスポーツできる団体を探して、スポーツをする」、「地域で文化芸術活動ができる団体を探して、文化芸術活動を行う」と答える生徒を合わせても20%に満たない結果となりました。

この質問の回答から、今の中学生の興味・関心のある活動の傾向が見えてきます。現在、市内の中学校に部活動としてない種目では、「バドミントン」に興味のある生徒が多いことがうかがえます。

最後に、本市の地域移行に向けた課題についてです。生徒・教員の減少により、部活動の選択肢が減り、スポーツ・文化芸術活動の機会が減ることや、部活動がなくなったときに、生徒によっては有意義な放課後を過ごすことができなくなったり、居場所がなくなったりしてしまうのではないかとということが挙げられます。

課題を踏まえた方向性として、「様々な手法で、多様な主体と地域資源を活用しつつ、子どもたちに多様な選択肢を用意していく。」、そのために市の実情に合わせた活動環境の整備や、専門的な外部指導者の有効活用、合同部活動の編成を検討していきたいと考えております。

私の方から説明は以上となります。ありがとうございます。

○佐藤市長

説明が終わりました。一旦ここで部活動の視察に移らせていただいて、その後、質疑応答に移りたいと思いますので、よろしくをお願いします。

○教育総務課長

1点、視察前に補足説明をよろしいでしょうか。野球部と吹奏楽部を見ていただくのですが、野球部は松浪中学校と合同部活動を行っています。休日に松浪中学校と合同で活動し、平日は単独で練習を行っているというところでございます。野球部は外部指導協力者に協力をいただいております、本日も来ていただいて、生徒たちに教えていただいているというような状況でございます。

それから吹奏楽部、こちらにつきましては外部指導協力者が主に休日に来ていただいておりますので、そういったことを踏まえた上で視察していただければと思います。

(部活動視察 15:45～16:10)

○佐藤市長

それでは、ご視察ありがとうございました。意見交換に入りたいと思います。本日の意見交換の視点は2点と考えております。1つ目は、「部活動の在り方、意義」、2つ目は「今後のこどもたちのスポーツ・文化芸術活動の環境整備」です。皆さんから自由にご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

○赤坂委員

柴田校長先生に質問ですが、日頃から活動している様子を見ていますが、土曜・日曜の活動も、平日の朝練も、先生方は指導してくださっていますが、先生方が自主的に指導されてるのでしょうか。それとも保護者からの要望があって、指導されているのでしょうか。

○梅田中学校長

基本としましては、教員がこどもたちの体力や、使える環境等を考えながら、土日の活動や朝練の日を決めています。土日や平日も活動時間等については、市のガイドラインがありますので、それを守る形で行っています。基本的に土日ですと、土日どちらかの曜日を活動するかというところは、顧問がどちらかの曜日で決めて、どちらかを休養日に当ててる形です。

○赤坂委員

先生方、頑張り過ぎていないかなといつも心配して見ているのですが、いかがですか。負担になっていないでしょうか。

○梅田中学校長

そうですね、やはり時期的な問題もあると思うのですがけれども、成績処理や授業準備が立て込んでいる時期になると、やはり厳しい状況があるのは事実だと思います。まだ今の時期は下校時刻・部活動の最終時刻も午後5時ですので、まだそこまで活動時間が長く

ないのですが、夏場になってきますと、もっと遅くまで練習できますので、それが午後6時ぐらいに終わって、そのあとに教材研究やお休みしていた生徒の保護者の方に連絡を取ったりということもありますので、夏場は本当に厳しいところもあります。

ただ、やはり子どもたちにとしてみると、夏の大会というのが部活動の集大成になりますので、そちらの方も大事にしてあげたい、でも自分の本分である授業の準備をきちんとしなければというのがありますので、夏前のところは大変な思いはしながらも、何とか頑張っているという状況ですね。

○佐藤市長

他にございますでしょうか。

○竹内教育長

市全体の中で、合同部活動は結構あるのでしょうか。

○学校教育指導課課長補佐

茅ヶ崎地区としてお答えさせていただきますが、野球は梅田中と松浪中、鶴が台中と西浜中、寒川の中学校3校合同で、サッカーでは西浜中と寒川中、ソフトボールでは梅田中と第一中と鶴が台中で、合同チームとして活動を行っており公式戦に出ています。

○竹内教育長

日常的な練習というのは、平日ですと移動が大変かと思うのですがいかがでしょうか。

○学校教育指導課課長補佐

平日の部活動は各学校で練習をして、休日においては、連携を取りながら合同で練習をしたり、試合をしたりするという形をとっています。土日に限り、合同チームとして活動するというのが基本的な流れであり、平日は移動して合同で練習することはありません。

○竹内教育長

梅田中だけでなく市内全体でも、学校の部活とは別の地域のクラブチームに入っている生徒は増えているのでしょうか。

○学校教育指導課課長補佐

小学校6年生から中学校1年生に上がるときに、今までやってきた種目について、野球であれば軟式野球の部活動にするか、硬式野球のクラブチームにするかという選択で悩まれたり、サッカーであれば部活動に所属するか、新しくクラブチームに加入するかということをよく聞きますが、比較的、近年、少しずつクラブチームに所属する生徒が増えているように感じます。

ただ、部活動が全く選ばれないわけではなくて、選ぶ生徒はいますので、生徒にとって選択肢が増えているというような見解かと思います。

○伊藤委員

今のお話で、例えばクラブチームに入っているために、運動会とか土日の学校行事に影響を及ぼしているということもあるのかなという気がします。また、少子化とかの理由により、これまでの形での部活動が継続困難という理由だったんですけども、そうではなくて、基本的に部活のことは考えなければいけないのではないかというふうに私は思うんです。私は実は部活が大好きな人間なんですけども、それは置いといて、本来業務かどうかということも、考えなければいけないのではないかと私は思うんですね。

いろんなことがある中で、例えば今、こどもたちの環境整備をするとのことで、茅ヶ崎市として、こんなことが今ものすごく課題なんですよということがあってはないかと思うので、そこに焦点を当てていくことが大事かなと思うんですけども、それは今、何でしょうか。

○学校教育指導課長

学校教育指導課からお答えいたします。先ほどのスライドにもありましたが、県と国の方針は出たものの、なかなか当初の目的を達成することは難しく、何十年にわたり学校が担ってきた部活動の文化でもあります。一方では、教員の働き方という視点で、校長先生からもお話があったように課題もあります。私たち、指導主事も多くが部活動をやってきましたが、やはり部活動の意義とか価値というのが間違いなくあって、これまでの取組は

間違っただけではなかったと思うんです。

でも、教員だけに負担を強いることは、この先、厳しいだろうということで、国の方からこの動きが始まったところなんです。ただそこがどこまで進むかわからない中で、我々としては、先ほど申し上げたように、市長部局と教育委員会で連携しながら市内検討会議を立ち上げたところです。県と国の動向を見ながらも、今できることというところでは、先ほどバドミントンの話が出ましたが、バドミントンを部活でやりたい子は今、茅ヶ崎市ではバドミントン部がないためできないんですね。市外のバドミントンをやってきた子がいる世帯が茅ヶ崎市に引っ越そうと検討する際に、バドミントン部がないから茅ヶ崎は避けようということにならないように環境を整えることもシティプロモーションの1つだと考えています。

例えばラグビーであるとか、バドミントンであるとか、移行期間については、当面の間は部活動とクラブチーム等を併用しながらも、今、市内の部活動として存在しないバドミントンとかラグビーとか、また別の競技も含めて、そういったものを新たな環境を整備して、子どもたちに多様な選択肢を与えるということを目指すというのが、最優先に取り組むべき事項であると市内検討会議で話し合ってきました。

○伊藤委員

理解しました。ありがとうございました。

○赤坂委員

柴田校長先生と山田指導主事に質問します。私、25年前、中学校の教師でした。外部指導者を受け入れていた経験があります。外部指導者の方が、熱心に生徒たちを指導していただくあまり、勝利至上主義に走られることはありませんか。

○梅田中学校長

今、本校の指導協力者として入ってくださっている方々は、学校教育指導課で指導協力者向けに研修会等を開いていただいているおかげもあると思うのですが、「学校教育の中での部活動」というところはきちんと理解していただいております。勝利至上主義に走ってしまうというようなことで困ったなということではなく、本校の部活動にご協力いただいております。

○学校教育指導課課長補佐

私も昨年度まで中学校の教員で、バスケットボール部を担当していました。得意としているのは剣道ですが、全くこれまでバスケットボールに通ずることがない中で、部活の顧問になったので、外部指導協力者に協力いただき、生徒に技術指導してもらったんですけども、連携を密にとってくれる指導協力者だったので、私がこういうふうに運営したり、こういう活動したい、こういうふうな生徒を育てたいというところを、共通理解を図りながら、足並みをそろえて指導して下さったんで、とてもやりやすかったです。

学校教育指導課では、柴田校長先生の説明の通り、外部指導協力者に、勝利至上主義にならないように、インクルーシブ的な視点からも見られるように、研修会を取り組んでいますので、今後も引き続き進めて参りたいと思います。

○赤坂委員

ありがとうございました。

○竹内教育長

今日、拝見させていただいて、様々な地域移行に向けては課題もたくさんあって、どう整理していくかという、難しさもたくさんあると思うんですね。その中で、アンケートで、私は危機感を感じなきゃいけないと思ったのは、「もしも部活動が学校になかったら、あなたは放課後や休日をどのように過ごすと思いますか。」という問いに対して、「自宅でゆっくり過ごす」と答えている子たちが結構いることです。どこにも所属しない子が出てきてしまう可能性もあるということもあって、いろんな課題があるんですが、逆に明るい材料となるようなメリットをできるだけ私たちは探していつてあげなきゃいけないのではないかなと思います。地域に移っていくことで子どもたちもすごく魅力を感じる部活動の在り方や、地域移行への道筋を是非とも考えていきたいなと思います。

○大森委員

拝見させていただいてありがとうございました。拝見する前はこの資料を見て、中学校の時代に共同で力を合わせていくということが、非常に教育的意義があるんだということを知ることができました。それを、地域の方、それから保護者、もちろん生徒さ

んにも理解いただくことも1つ大事だと思います。

存続ということだけを考えるとすれば、こうしたらよいとアイデアがきつとあると思うんですが、それ以前のこととして、中学校の時代にみんなでやることの大切さを伝えなくて、地域移行を進めてしまうと、何か間違ったことが起きるんじゃないかなという危機感を持っています。ですから、ぜひ、参加することがどれだけ将来にわたって、こどもたちの心に根付くものがあるんだ、振り返ったときにワクワクが戻ってきたとかという感情もあると思うので、そこはまず大事にされた方がいいと思いました。

それに、存続のためにはどんなアイデアがあるかなというところを考えていくことが必要だと思いますし、生徒さんたちが活動している姿を見て、やっぱり楽しそうでしたね、みんなと力を合わせるってこんなにいいことなんだっていうのをきつと感じながらやってらっしゃると思うので、なくすということではなくて、なくならないように、周りの大人が、地域が考えていくことは、具体的ではないんですが、とても大事なことであり、初めの一歩だと思います。

○中馬委員

見学させていただいてありがとうございました。やはり活動している人数が少ないなと感じたんですけど、一人一人がしっかり向き合っていることに、私自身が大人数の中でやっていた部活なので、皆さんが一生懸命やってる姿を見て、人数が少ない方に目が行きがちだったんですけど、安心しました。

複数の学校が集まって合同で部活動をされているということは難しいことも多いと思うんですけども、やりたいと思うこどもたちがその年代によって何に偏るかというのは、ずっと起きることではあるとは思うんですね。なので、先生方も大変だと思うんですけども、こうやって外部の指導協力者の方と連携がうまくいってるっていう事例もありましたので、こういった合同部活動でもいいから一緒にやっていける環境を保ち続ける中で、地域の方々にも関わっていただくというところを探っていけるような環境整備が重要だと思います。

あと私が考えるのは、部活動は大人になってからではできないことをできるんですね。それがすごく魅力的で、私も吹奏楽部にいたんですけど、きっと中学にいなかったら、そんな楽器を触る機会がなかったんですよ。なので、それだけでも、とても貴重な経験なんですね。なので、完全に移行するということは、すぐにはこの感じだとなないように

見受けられましたので、ぜひその機会を規模が小さくなくても、大きくなっても継続できることをみんなで考えていけたらいいんじゃないかなと感じました。

○佐藤市長

1つよろしいですか。もし来年度、松浪中の野球部員が増え、松浪中だけで1つのチームが成立する場合、梅田中との合同部活動はどのようになるのでしょうか。

○学校教育指導課長

その年度で、合同チームの組み合わせは変わるんですね。それは、結局、試合に出れない学校なくそうという考えが最優先なので、その年度で部員が足りない学校同士が合同部活動として活動していますので、その組み合わせは固定ではありません。また、野球専門部はこれからの中期的な視点で、市内の中学校の野球部について、専門部として案を出して我々と共有してるところです。

大事なことは、どの子どもにとってもそういった活動の機会をしっかりと保障してあげることだと思っています。

○佐藤市長

わかりました。ありがとうございました。

その他、学校教育指導課や、本日出席しています関係者に対して、何かお聞きしたいことございますか。

(質問、意見なし)

○佐藤市長

では、事務局より事務連絡をお願いいたします。

○教育総務課長

事務局より連絡事項はございません。ありがとうございました。

○佐藤市長

それでは、本日の日程を全て終了いたしましたので、第2回総合教育会議を終了いたします。これをもちまして、今年度の総合教育会議については、全日程終了でございます。お疲れさまでした。